叙位・叙勲

○叙位

従四位に叙する
（和歌山工業高等専門学校名誉教授）
吉川　壽洋

従四位に叙する
荻原　勝　小野　忠彦　河先　進

従五位に叙する（各通）
伊計　光義　浦野　博司　河口　陽一
藤上　惠三　堀江　光明

正六位に叙する（各通）
安東　邦夫　伊賀上貞利　池田　英行
大田　通祥　掛川　登　上戸　誠次
幸林　周逸　後藤　昭吾　武田吉太郎
永谷　格夫　長谷川清昭　原口　正美
福田　一正　宮崎　徹

従六位に叙する（各通）
寒河江純司

正七位に叙する（以上七年十二月十一日）
（徳島大学名誉教授）
金品　昌志

正四位に叙する
岩井　武　大谷　喜男　鴨志田　太
木代　俊道　坂田　喜信　清水　昭一
田代　勇

正六位に叙する（各通）
安達佳久男　岩下　保　岡　幹雄
岡部　宏　尾城　和雄　木森　重勝
田村　靖一　眞島　修一　道上　外人

従六位に叙する（各通）
玉造　福壽　松田　史郎

従七位に叙する（各通）（以上七年十二月十二日）
瀬戸　正胤

従四位に叙する
平岡　克也

従五位に叙する
岩村　好美
加藤　雄三
東内　省藏
成田　友治
藤澤喜一郎
松野　孝明

正六位に叙する（各通）
白井　皓三　瀬田　良宏
鳥本　優至　中野　敬生
信重　勝人　原田　稔
前島　正治　町田　研志

従六位に叙する（各通）
大塚　正膽　佐藤　實　南條　裕

正七位に叙する（各通）（以上七年十二月十三日）
上原　直
和田　憲二
梶田　靜男

従五位に叙する
正六位に叙する
淺野　馨　大石　之治
櫛田　道夫　山崎　清隆

従六位に叙する（各通）
川本　克己

正七位に叙する（以上七年十二月十四日）
齊藤　均

従五位に叙する
大谷　弘義

正七位に叙する（以上七年十二月十五日）
北澤　宏

正六位に叙する（七年十二月十六日）
落合　秀雄

従六位に叙する（各通）
島津　幸廣

（岩手県奥州金ケ崎行政事務組合消防司令）
及川　正範

従七位に叙する（以上七年十二月十七日）

○叙勲

瑞宝双光章を授ける（各通）（七年十二月十一日）
浦野　博司　小野　忠彦
河口　陽一　寒河江純司
大谷　喜男　木代　俊道
清水　昭一　田代　勇　鴨志田　太
松田　史郎
岡　幹雄　玉造　福壽

瑞宝単光章を授ける（各通）（以上七年十二月十二日）
平岡　克也

瑞宝小綬章を授ける
岩村　好美

瑞宝双光章を授ける（各通）
佐藤　實　鳥本　優至

瑞宝単光章を授ける（以上七年十二月十三日）
小野　輝雄　山崎　清隆

瑞宝双光章を授ける（各通）
大塚　正膽

瑞宝単光章を授ける（以上七年十二月十四日）
齊藤　均

瑞宝双光章を授ける（七年十二月十五日）
大谷　弘義

（岩手県奥州金ケ崎行政事務組合消防司令）
及川　正範

瑞宝単光章を授ける（七年十二月十七日）

皇室事項

歌会始の儀

一月十四日午前十時三十分、宮中において、歌会始の儀を行われた。

御製、御歌、皇族の詠進歌、召人、召人控及び選者の詠進歌並びに選歌は、次のとおりである。

御　製

天空にかがやく明星眺めつつ新たなる年の平安祈る

皇后宮御歌

メダル掛け笑顔明るき選手らに手話で伝へる祝ひのことば

皇　嗣

夜明け前一番鶏の鳴く声にアンルーナイの一日始まる

皇嗣妃

雨降れば部屋で工作紙芝居「あそびのひろば」は明るい広場

愛子内親王

日本語を学ぶラオスの子どもらの明るき声は教室に満つ

彬子女王

ブラジルと日本で会つた子どもらの明るい未来幸せ願ふ

佳子内親王

薄明かり黄昏とんぼは橋のうへ青くつきりと俊敏に飛ぶ

悠仁親王

夕暮れて富士登山する人多く列なす明りうごきゆく見ゆ

承子女王

江戸川に打ち上げられし満開の花火明るし笑顔眩しき

正仁親王妃華子

祖父宮（おほぢみや）の語りたまひし異国（とつくに）の砂の文明間近に迫る

寛仁親王妃信子

佐渡島ほのぼの白く明けゆきて餌場に朱鷺の舞ひ降りきたり

憲仁親王妃久子

御祖山（みそやま）明るむ天（あめ）に杣人の声ひびきたり「一本（いつぽん）寝るぞ」

召　人

ピーター・J・マクミラン

あな尊（たふと）茜に雲は染まりをり明日船出を言祝（ことほ）ぐがごと

召人控

上野　誠